



目先のことだけではなく

校長 矢野 尊久

1月に入ると3年生は、進路選択がいよいよ目の前に迫ってきます。そんな時、どうしても志望校に合格することだけに気持ちがいらってしまいます。もちろん自分の目指す進路を決めることはとても大切な事です。しかし一方で、「目先のことだけではなくその先をしっかりと見る」ことも必要です。なかなか難しいことですが、その先にある大切なものやものの本質を捉えて取り組もうということです。目標を「志望校合格」にしてしまうと合格そのものがゴールになってしまい、その先の自分の生き方が分からなくなってしまうことがあります。志望校合格は目的ではなく、あくまでも手段です。志望校を考えるということは、自分の将来や生き方について考えることなのです。目先ではなく先をしっかりと見るならば、志望校に入って何をしたいのか、そして何のために自分はそこへ行くのか、ということも同時に考えることができるのではないのでしょうか。

就職面接などで「あなたは日頃、健康に過ごすためにどのようなことをしていますか」という質問を出されることがあるそうです。まず答えとして考えることは、健康＝運動で、「毎週スポーツしています」とか「ジムに通っています」などの答えがあります。また健康＝バランスの取れた食事ということで「栄養を考えて食事に気を遣っています」という答え方もあります。もちろんどちらも正解ですが、企業に喜ばれる模範解答は「毎日自分でお弁当をつくっています」だそうです。これは「栄養を考えて食事に気遣っています」に近い答えですが、自分でお弁当つくるための時間を取り、計画してやり遂げているということがポイントのようです。給食のない長期休業中にはコンビニ弁当などで済ませていた身には、耳の痛い話ですが、目先の「健康」というイメージだけではなく、忙しくても自分を律して日々努力をするという、その先にある姿勢が企業の求める将来性のある人材のようです。

さて、今、各教科の評価は学力の3要素である「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」の3つがあり、ここから5段階の評定が出されます。この評価の中で、分かりにくいのは「学びに向かう力・人間性」と言われています。この力は、自分の学びを調整する力であり、粘り強く学習に取り組む力と定義されています。ここで必要なことは、やはり「目先のことだけではなくその先をしっかりと見る」ことではないかと思っています。ひとつ試験や課題の結果だけではなく、ゴールに向かうまでの姿勢が問われているのです。うまくいかなくてもうまくいく方法を考えながらその学習にたゆまず取り組むこと、そのプロセスを大切にすることです。多くの進路選択での筆記試験では「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」が問われているのですが、そのために本当に大事なことは、まさに「自分の学びを調整しながら、粘り強く取り組む」つまり、「目先にとらわれなくて、その先を見る」ということかもしれません。3年生が卒業式を迎えた時、進路決定というプロセスの中で、一回りも二回りも大きく成長した姿になってくれることを願っています。



◆◆生徒作品展◆◆

西東京市の生徒作品展が2年ぶりに開催されました。会場は「きらっと」で美術作品、書写・書き初め作品、技術・家庭科作品、特別支援学級の作品などで1月14日（土）から16日（月）まで開催されました。特に土日には1000人以上の参観者が訪れ、代表生徒の力作に見入っていました。



◆◆令和3・4年度 西東京市立学校教育研究奨励事業研究指定校発表に向けて◆◆

二中では令和3年度から2年間市の研究指定を受けてGIGAスクール構想推進校としてタブレットパソコンの活用を研究してきました。その発表会を今月末の1月31日に行います。コロナ禍ということもあり、保護者・地域の方々には申し訳ありませんが、参観は学校関係者だけにさせていただきます。そこで、2年間の成果の一部をこちらに掲載いたします。

成果1 本校の研究テーマは「情報活用能力の育成」です。その中心と考えている「問題解決に向けて、様々な方法を考え、よりよいものを選択し、取り組むことができる」という生徒の力がタブレットの使用を開始した昨年度の1学期の41%から今年度2学期末には50%へ増加して「ややあてはまる」という項目も含めると93%が肯定的回答となりました。

成果2 二中の教員の授業改革^{※1}がすすみ、タブレットを使って生徒主体の授業を行う手だてや視点が増え、課題を解決するためにタブレットやその他ツールも生徒が自由に選択するなど、どのように取り組めばよいかを考える「課題解決型」の授業が定着しました。

※1 各教科等の指導内容を、タブレットの活用を使いながら主体的に学んでいけるようにする指導で、教員が一方的に「教える」授業から「導く」授業（ファシリテーションする授業）に改革しました。

成果3 生徒にとっても教員にとってもタブレットが様々な教育活動において必要不可欠な学習道具になりました。



成果4 「基本的な操作」「情報活用」「プログラミング」などの生徒の力が向上し、GIGAスクール構想が定着しつつあります。

※その他の成果等については研究発表後に学校ホームページに掲載いたします。

なお、当日の研究発表会では、生徒自身によるタブレットの使用についての様々な意見を伝え、先生からの質問への回答を言う場面も設けています。

（左の写真は発表リハーサルの様子です）